



Happy New Year

19MAGAZINE

19UNLIMITED PRESENTS

Please read on!

Vol.49 / 19th JAN 2023

<今月の表紙>

2023年は卯年。うさぎのように軽やかな足取りで日の出がまばゆい目標の山へと挑みたいものです。

IF YOU WANNA BE UNLIMITED, YOU SHOULD READ THIS !



TEL 019-601-6619
FAX 019-601-6719
SITE 19unltd.co.jp



SHUNTARO AOKI

一級建築士 青木俊太郎の建築の知識が豊かになるコラム

旅と僕と名建築



「大阪中之島美術館」大阪府大阪市（2022年開館）

今回紹介する建物は大阪府中之島にある「大阪中之島美術館」。2021年6月末に竣工、2022年2月に開館しました。

初見で黒の外壁がインパクトがあり目を引きます。コンセプトは「さまざまな人と活動が交錯する都市のような美術館」。黒の面が多いからこそ際立つガラス大開口部にそのコンセプトが表現されています。中と外のつながりを感じながら、素材感が伝わる黒の外壁面を用いたことでより際立って感じます。

この外壁はコンクリートでつくられており、骨材や砂を表に出すことで凹凸感を表現しています。一般的に外壁の黒は経年劣化により色あせてくるケースが多いのですが、凹凸感により光を乱反射させ、骨材なども元から黒い骨材を使用するなどの工夫により、色あせない黒

色を表現していました。

内装材はすべてアルミスパンドレルでつくられています。シャープで洗練された印象を受けるとともに、外壁材の光沢感の無さと内部の金属光沢感のコントラストが、建物の中に入った瞬間の美術館への期待感や高揚感を演出しているように感じました。

まだ竣工から1年も経っていない建物の新しさを感じつつ、素材感が古びることのない未来の姿も想像できるすばらしい名建築でした。

旅のおしえ

設計は株式会社遠藤克彦建築研究所の遠藤克彦氏。住宅からビル建築、公共施設など幅広く手掛けている。大阪中之島美術館は第32回AACA賞にて「奨励賞」を受賞しています。



SHIHO KAKISAWA

空間プランナー 柿澤志保が至極のインテリアを紹介するコラム

わたしが選ぶインテリア

今日は『しめ縄』

年神様をお迎えるほかに無病息災の願いも込められています。伊勢地方(三重県)では1年中しめ縄を飾るそうです。



写真は三重県・伊勢地方に伝わる「笑門飾り」。「笑門」とは古事記に登場するスサノオノミコを助けたとされる「蘇民将来」の逸話に由来するそう。気になる方は調べてみてください！

新年を迎えるにあたり欠かせないアイテムに「しめ縄」があります。日本にはしめ縄を玄関に飾る習慣がありますが、これは神様を迎える清浄な場所であることを示し、お正月に年神様を迎える準備のひとつです。しめ飾りは地域や作り手さんによって特徴が異なります。縁起を担いで年神様をお迎える目的は同じでもその土地に伝承する物語が由来になって

いたり、暮らしに馴染みの深い道具がモチーフになっていたり形状は様々です。厄除けとして1年中飾っておく地域もあります。長寿・多幸などを願う「宝結び」や厄を断ち切る、邪心を摘み取るといった意味が込められた「ハサミ型」など結びや形状によって意味があります。1年の始まりの大切な時期だからこそ、大切に選んで飾って欲しい伝統アイテムです。

DAWEI LI

営業 李大偉がスムーズな建設プロジェクト方法を紹介するコラム

プロジェクトマネジメントのコツ

Vol.13 建築資材が高騰！工場建築への影響は？

建築資材の高騰は建築コストにも大きな影響を与え、最終的には工場建築の値上げにつながります。短期間に急激な高騰があると、見積りと実際の費用に大きな差が生じ、資材を確保できなかったり、工事の遅延・中断が発生したりする可能性もあります。今年度の社内報の記事は数回に分けて、建築資材が高騰している理由、建築コスト

への影響、プロジェクトにおいて予算を抑える方法を解説していきます。<建築資材が高騰している4つの理由>
①ウッドショック&アイアンショック (海外の影響)
②国内需要の溜め込み
③円安による輸入価格上昇
④ロシア・ウクライナ情勢による燃料高騰

来月号では①と②の背景を解説！



「トップファクトリー」サイトはこちら

LIA HIYAMA

デザイナー トイレ研究者・日山莉愛のトイレデザインレポート

トイレデザイン日記



2022年は“おいしい空間”を題材に“食”を軸として体感したデザインをご紹介してきました。2023年からは19大学院で活動している“トイレ研究”について記事にしていきます。

トイレは一般的に3K(臭い・汚い・怖い)と言われています。毎日利用する身近な空間が3Kというのは良い気持ちがありませんよね？このコラムでは実際に見てきたトイレ空間をご紹介し、トイレの悪印象を変え、素敵なトイレをつくっていくヒントに繋げたいと考えています。

今月ご紹介するのは鎌倉市にある旧村上邸。明治時代に建てられた伝統的な様式の和風木造住宅です。古民家ならではの

トイレの入口の引き戸は古い建物によくあるようなすりガラス。ガラス面からぼやっと中の光が見えて素敵な入口でした。トイレに行くまでの廊下で比較的暗いので、入口から漏れる光が導いているかのように感じ、間接照明の役割も果たしていました。さりげなくトイレのサインも入っていて、すりガラスも悪くないなと感じました。中に入ると梁や柱はそのままトイレブースが配置され、手洗いの壁面には元々窓があった場所に鏡がはめ込まれていました。既存の建具を利用してつくられているのは古民家再生の醍醐味です。古い=汚いという悪印象を脱却したトイレ空間でした。

旧村上邸 〒248-0004 神奈川県鎌倉市西御門2丁目8-22 営業時間/10:00~18:00(水曜日を除く平日)

元所有者である村上梅子さんの想いを受け継ぎ、現在は企業研修所、コミュニティセンターとして生まれ変わった施設です。現在でも研修やイベント時に活用されています。

Follow Me! トイレ研究者・日山莉愛 Instagramはこちら!



AYANA MORI

グラフィックデザイナー 森居綾那のリアルタイム子育て絵日記

おかーさんにっき



これ!! おすすめ

私が紹介したいオススメの一品

鰻屋「かいだ屋」@高知県南国市



高知県南国市に「かいだ屋」という鰻屋があります。注文を受けてから生鰻を炭火で焼き上げます。お跳子を2~3本飲んだ頃、カリッとした香ばしいうな重が仕上がります。うな重(中)が3600円。



〒783-0083 高知県南国市浜成田1330-3 (高知鰻鳥空港からタクシーで1500円)

< ジュークの最新ニュースはこちら >

NEWS

1/4新年仕事始め式@盛岡八幡宮

由緒正しき盛岡八幡宮にてご祈禱をして2023年スタート。「TPOを楽しむ」ことをテーマに年始のドレスコードは正装で。久しぶりに着用する着物、スーツ、ヒールなど各自それぞれの正装で集まりました。



NEWS

1/16岩手県ロールモデルセミナー登壇

代表加藤が「いわて女性の活躍応援セミナー・私らしいライフキャリアを語るう〜バイアスを乗り越えてチャレンジ〜」に登壇。パネリストとして女性経営者の視点で生立ちからキャリアまでを語りました。



(セミナーの概要はこちら)



NEWS

12/28拡大版コムパン2022忘年会

companyの語源であるみんなで(com)ご飯(pan)を食べるコミュニケーション制度「コムパン」。お子様、パートナーの設計士、ユニフォーム会社も参加し、会社のテーブルを囲んで2022年を締めくくりました。



INFORMATIONS ●2/7~9経営支援EXPO「見積Dr.」ブース出展@東京ビッグサイト ●2月株式会社シンコーメタリコン様新工場竣工@滋賀 ●3/9・10ペンチマーク視察団@埼玉・深谷

ブランディングに役立つ本と映画ご紹介

ジュークおすすめ! BOOK

GE帝国盛衰史 「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか トーマス・グリタ、ラッド・マン (著) 2022年 タイムモンド社



ジュークではお世話になっている企業様に毎年クリスマスプレゼントとして本をお贈りしています。その中の1冊をご紹介。発明王エジソンが興し、世界最大の総合電機メーカーとして栄華を誇ったゼネラル・エレクトリック(GE)の栄枯盛衰が書かれています。ビル・ゲイツも絶賛の本書は経営者の皆様にお贈りした推薦本です。

ジュークおすすめ! MOVIE

死ぬまでにしたい10のこと 2003年 カナダ・スペイン合作



昨年1月にご紹介した「最高の人生の見つけ方」に続き、今年もバケットリストにちなんだ映画をご紹介。23歳という若さで末期ガンで余命2か月と宣告されたアン。深夜のカフェで独り、10項目の「死ぬまでにしたいこと」リストをつくります。後悔に年齢は関係なし。どう毎日過ごすのか?を考えさせられる1本。

新春企画 2023年ジュークのバケッリスト

バケッリストとは？

bucket list(バケッリスト)とは『死ぬまでにやっておきたいことリスト』のこと。ジュークはクリエイティブな仕事が多いので「いつでもどこでもインプット」「仕事」「遊ぶ」のワークライフミックスな働き方をしています。仕事もプライベートも後悔ないように生きる私たちらしく、2022年からバケッリストをつくっています。着実に1つずつ達成して豊かな人生を！ぜひ皆さんもバケッリストをつくってみてください！



取締役会長
望月 郁夫

「3年前にキャンセルになった巡礼をリベンジ」

- ①サンティアゴ(スペイン)巡礼
- ②見積Dr.事業の立ち上げ
- ③ホノルルマラソン、ホノルルセンチュリーライドどちらかに参加



スペイン行きの航空券を3年前に手配していましたが、コロナで入国できなくなり断念。800kmの巡礼の旅に再チャレンジです。ホノルルマラソンやレースは体力的にもそろそろ今年が最後になるのかなと思います。



設計(一級建築士)
小松原 道郎

「本業と林業のワークライフバランス」

- ①新しい事業を開始
- ②狩猟免許の取得
- ③新しい語学の習得



大阪と北海道の2拠点生活を始めて、もう2年以上経ちます。北海道での生活基盤をさらに広げるべく、2023年は本業の軸の組み立てと林業事業にも挑戦します。ついでに狩猟免許も取得してジビエにも挑戦します！



営業
李 大偉

「行動量を増やす1年に」

- ①イベントや情報発信の場に行く
- ②得た情報を発信する
- ③サイクリングを継続する



2022年は19大学院の活動がほとんどできなかったのですが、アフターコロナに伴うビジネスの変化やカルチャーの進化にアンテナを張り、様々なジャンルの展示会やイベントに足を運んで刺激を探す1年にします！



設計(一級建築士)
青木 俊太郎

「カロリーは蓄えず知識と植物を蓄える」

- ①現体重-7キロキープ
- ②建材等のSR10ヶ所以上巡る
- ③自宅を植物モリモリに



体重は落としやすいけど増えやすい体質なので、今年は減らし体重キープを目標に。設計士としての動きが本格化してきているので、出張がてらショールームに寄って知識を増やしながら提案の幅を広げたいです。自宅グリーンもじわじわと増やしていきたい。



代表取締役社長
加藤 瑞紀

「World wide⇒Japanese tradition」

- ①海外渡航復活
- ②和装の着付けを完璧に
- ③夏に200km/月ラン



2022は自邸、実家の整備に着手し生活基盤を整える1年でした。2023は基盤を元によい海外復活。世界を知ると日本にも興味が湧くので着物を自分で着れるように。そしてアクティブを支える基礎体力はマスト！



監査役・経理
中村 幸枝

「赤い服を着てお祝いする年」

- ①体重マイナス8kg(本当は10kgだけけど)
- ②モロッコ旅行
- ③英語力



今年は年女なので赤い服を着てお祝いする年となります。健康的に過ごしどんなことをしても体重を落として、誕生日には赤いドレスを着て写真を撮りたいです。年に1回海外に行きたいので英語力をもっと上げたいです。



空間プランナー
柿澤 志保

「2023年は『楽しむ』をつくり出す年に」

- ①異分野挑戦<make fun>
- ②笑い転げる<happy>
- ③エーカーダージャカポターサーナ(鳩のポーズ)マスター<flexible>



物壁く積み上げることに注力してきた私にとって、楽しむことは異分野挑戦。これまで積み上げてきたものは一度叩き壊して、ブロックで遊ぶ子どものようにバラバラになったパーツを楽しみながら積み直す年にしたい。



グラフィックデザイナー
森居 綾那

「クリエイティブな感性と表現力を磨く」

- ①アイデア&デザインスキルを磨く
- ②自分が表現できる世界観を大切に
- ③たくさん旅行してインプット



コロナ流行&子育て4年目。趣味の海外旅行からすっきり過ぎかりときめく「インプットも「自分らしさ」という感覚も遠のいたのが昨年まで。今年は自分の感覚を取り戻しつつ、世界観と表現力の幅を広げたいです。



デザイナー
日山 莉愛

「知らないことを知る」

- ①トイレ研究家から専門家へ！
- ②建築士の勉強
- ③流行りに触れる(音楽・映画・本・漫画など)



2022年は19大学院を通してトイレ研究を始め、色々な所に足を運んで今までにない体験をしたり、建築士の資格を取得するなど学びの多い年でした。それでもまだまだ知らないことがたくさんあると実感しています。2023年は“学びの年”にしたいと思います！世の中の流行りにも敏感になりたいです。色々なジャンルの話ができるような人を目指します。

ON-GOING PROJECTS

進行中プロジェクトをチラ見せ



コーポレートカラーの「新橋色」



東京に本社、神奈川に工場をもつ
金属銘板製造業「末吉ネームプレート製作所」

No.13

末吉ネームプレート製作所 登戸工場建替プロジェクト@神奈川

生産を止めるな！
操業しながら同敷地内の建て替え

操業しながら建て替える カバービルド工法*

昨年2月に着工、今年5月完成予定の金属銘板製造業の末吉ネームプレート製作所様です。一昨年11月からはコーポレートブランディングを取り入れ、工場建替と並行し、加藤と共に理想的働き方、会社の歴史、オリジナルの取り組みなど「らしさ」発見と磨きをかけてきました。今冬から内装デザイン、サイン、揭示物の選定が始まっています。

会社の歴史を紐解く 新コーポレートカラー

現在は登戸(神奈川)で操業していますが、会社の歴史を紐解くと創業の地は東京の新橋。社長の幼い頃の記憶では、新橋の老舗新正堂(切腹最中が有名)のお菓子が家にあったそう。会社・社長のルーツであり、当時最もハイカラな場所であった新橋の芸者の間で流行した明るい青「新橋色」をコーポレートカラーに採用しました。

地鎮祭を社内周知の場に

「新橋色」は昨年8月の地鎮祭で発表。ブランディングチームとつくった会社の取り組みパンフレット、切腹最中、ソーダ色のキャンディーを新橋色の袋にまとめて社員さんに配布。社員の皆様からは「会社の歴史を知ることができた」「よく用意したね」と嬉しい言葉を頂きました。

建物にブランディングを反映

新工場の外観は製造業を感じさせるシルバー。内装はサインや什器の新橋色を引き立てるよう白を提案。建材、カラーの選定は新入社員の日山さんが先輩のサポートを受けながら担当しています。今年100周年という節目にエントランスにヒストリーコーナーも予定。創業時の貴重な看板や当時の写真・資料なども収集してもらっています。

2023年は新工場お披露目、100周年、新ロゴ決定など次々形になる年を一緒に走り抜けます。

*カバービルド工法…既存建物に一回り大きな壁を建て、完成後に内側の既存工場を解体。

NEW 19MAGAZINE デザインリニューアル

2023年1月号～デザインをリニューアルしました！昨年はジュークのコーポレートカラーであるモノトーン(白黒)で表紙の配色を統一し、その月をイメージした季節感のある柄をあしらいました。1～12月号まで揃えると統一感があります。今年はスタッフの個性やアベンジャーズ能力をさらにパワーアップさせるべく、毎月様々なカラーで表現することに！表紙のイラストはデザイナー森居の手描きです。

今年の社内報
昨年の社内報(1～12月号)

No.13 加藤の社長ブログ DEO NOTE



2022年を振り返って

百聞は一見に如かず、を大切にしているジュークアンリミテッドではお客様と対面の打合せ、クリエイティブなアウトプットするために現地に実際に足を運び、見聞きするインプットに重きを置いています。コロナ禍を経たからこそ、より強くオフラインの大切さに気がつきました。完全オンラインに舵を取る企業がいる一方、ジュークはアクティブに動いた2022年でした。相も変わらず出張・移動が多いスタッフ一同をいつも支えて頂きご家族の皆様には感謝申し上げます。

2022年のジュークアンリミテッドは10人という小規模組織でありながら新入社員を迎え入れるという大きな変化がありました。これを書いている今、ジュークは4年と8ヶ月です。5年目というステージに突入しています。気が知れたメンバーが集まり、創業、営業開拓、コロナ、ビジネスモデル転換、働き方のアップデートと短く濃い時間を過ごしました。各人の個性、能力に磨きをかけそれぞれのポジション、働き方のスタイルも確立し始め、最近は居心地の良い時間を過ごせていたと思います。ただ、私自身も含めよく言えば安定、悪く言えば甘えや馴れ合いが見え隠れし始めた頃、新入社員という新しい風が吹きました。教えることを通して、言葉にし、直接語りかけないと伝わらないことの大切さを改めて気づかせてくれました。彼女のおかげで初心に戻ることができ、組織がリフレッシュしました。当の本人も提案、3Dパース作成と戦力となり第一線で活躍しています。今後の成長が楽しみです。

ブランディング&施工事例がうまく循環し営業効果を感じていると共に、ブランディング+設計をお手伝いした企業が、ユニークさとパワフルさを増し、地方・業界のフロントランナーとなっている手応えを感じています。あんなふうになりたい！と思って頂ける一助になっているのがとても嬉しいです。(気になる記事の続きは下記QRコードから！)↓

上記ブログ続きは右記QRコードからnoteで読めます →→→